

毎日新聞 (6/24 7月 (日))

MAINICHI

新毎日

夕刊

6月24日 (月)

2019年 (令和元年)

発行所：東京都千代田区一ツ橋1-1-1
〒100-8051 電話 (03) 3212-0321
毎日新聞東京本社

育児の悩み 夜聞きます

支援センター 共働き向け

日中は仕事に追われ、子どもの成長が気になっても相談する時間もない……。そんな共働き世帯を支えようと、千葉県松戸市の子育て支援センターが4月、夕方から夜間の相談を始めたところ、日中に働く親のみならず、夫の帰宅まで「ワンオペ」で育児を担う専業主婦のニーズも掘り起こした。全国的にも珍しい取り組みで、関西や九州の自治体や保育施設からも問い合わせが寄せられている。【谷本仁美】

「昨日も夜泣きで主人が起きてしまって、悪いことしたなど。今日はもう少し子どもを遊ばせようと思って連れて来ました」。松戸市の「ドリーム子育て支援センター」で母親が打ち明けた。社会福祉士と保育士の資格を持つスタッフはほほ笑みながら何度もうなずき、すぐにアドバイスを返すことはせず、じっくりと耳を傾けた。

センターは子ども連れで利用でき、社会福祉法人「さわらび福祉会」（和田泰彦理事長）が委託を受けて運営している。同法人は夜間



子どもをあやしむながらスタッフと談笑する母親(右) 〓ドリーム子育て支援センター提供

4月の利用は12組で、想定以上に多かったのは専業主婦。「夜泣きに付き合うと日中は体がだるく、夕方に来た」「子どもがなかなか寝付かないので連れてきた」「子どもの発達に不安な面があり」日中は他人の目が気になる」。家事と

人目気にせず本音「ワンオペ」層も

育児を一人でこなし、夫の帰りを待つ夜は疲労からイライラが子どもに向いてしまいがちな「魔の時間」（和田理事長）。滞在時間は約1時間と短いが、子どもを遊ばせながら、スタッフのつらい気持ちを聞いてもらうことで、安心した表情を見せる人も多いという。「ここで話ができなければ子どもに手を上げていた」という切実な声もあった。

5月は利用者が24組に倍増し、父親を含め本来ターゲットとしていた共働き世帯の親の姿も増えてきている。同市によると、問い合わせを寄せる他自治体は、やはり昼に相談に來られたい層の取り込みに関心を抱いているという。

相談スタッフでもある保育園保育所の三浦理恵園長は「日中に比べ、夜の方が遠く話ができる。一人で抱え込まず、気軽に気分転換に来てほしい」。近年の児童虐待の増加も踏まえ、同市子育て支援課の大場慶育課長補佐も「家庭内で問題を抱えているのであれば、いち早くキャッチし、専門機関につなぐことができるのでは」と話している。

